

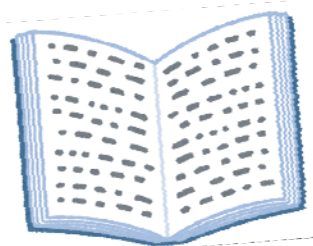
## セッションの流れ

1. 近年の教育改革
2. 教育の内部質保証方針
3. シラバスの役割
4. シラバス作成ガイドライン
5. シラバスチェック→修正



平成30年度徳島大学全学FD推進プログラム

# 教育の内部質保証方針に則った シラバスの書き方



徳島大学  
総合教育センター  
川野卓二・吉田 博

### 1. 近年の教育改革

3

## 授業改善から質保証へ

- FD (Floppy Disk から Faculty Development へ)
- Teaching から Learning へ
- 3つのポリシー (AP、CP、DP)
- アクティブラーニング、反転授業、ループリク
- 4つ目のポリシー (アセスメントポリシー)
- 徳島大学「教育の内部質保証方針」

### 2. 内部質保証方針

4

## 教育の内部質保証方針

- 平成30年11月21日の大学教育委員会にて承認
- 学部及び大学院の質保証方針及びガイドライン
- 大学院の内容は、研究指導および評価に関する方針・ガイドラインを含む
- ガイドラインは、(1)全学レベルの統括及び管理運営の評価、(2)学位レベルのプログラムの評価、(3)科目レベルの学生の学修成果の評価の3つのレベルに分かれている

## 教育の内部質保証の5W1H

- Who : 学生、**教員**、プログラム評価委員、役員
- What: **学生(成績)評価**、**授業評価**、プログラム評価、全学評価
- When : 期末時期に限定しない (複数回)
- Where : 授業クラス内、授業クラス外
- Why : 教育の成果の質保証
- How : **評価の透明性**を確保、複数の手法を利用

## (3) 学生の学修成果の評価： 授業・成績評価ガイドライン (抜)

- (1)対象：全ての授業**科目**について、受講**学生**、科目担当**教員**による学生の学修成果の評価が対象
- (2)方法：**共通事項**①意図した**学修成果(到達目標)**、評価の**機会や方法の複数化**②評価の**内容**、**実施時期**、**実施方法**及び評価**基準**について**シラバスに公表**。学生は、科目が意図している学修成果を念頭に置き、それを具現化するために**主体的に学修**に取り組む責任を持つ  
**評価方法** ①直接評価、②間接評価
- (3)手順：**日程**の公表、**内容**の開示、**評価方法**・**評価基準**の開示、**評価の実施**、**記録の開示**及び**保存(5年間)**
- (4)疑義の申し立て：申し立て先、調整の実施、記録の保存
- (5)改訂：少なくとも**2年ごとに見直す**

## シラバスとは何か (文科省答申)

学生に事前に提示する**シラバス**は、単なる講義概要 (コースカタログ) にとどまることなく、学生が授業のため**主体的に事前の準備や事後の展開などを行うことを可能**にし、**他の授業科目との関連性の説明**などの記述を含み、授業の工程表として機能するよう作成されること。

中央教育審議会 (2012) 「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」

## シラバスの役割

- 1. 授業選択のガイド**
  - 自身の学力・興味関心などに見合った科目か判断する
- 2. 教員と学生との契約書**
  - 単位の付与・教育の提供、授業への取り組み方などを約束する
- 3. 学習効果を高める**
  - 学習への動機づけ、やるべき学習方法、量、レベルの把握
- 4. 人間関係づくりのツール**
  - 教員 (学問) への関心の第一歩となる
- 5. 授業の雰囲気伝える**
  - シラバスの文面から授業の雰囲気や教員の人柄をイメージする
- 6. 授業全体をデザインする文書**
  - 1回分の授業と全体とを俯瞰的に確認できる (目次的機能)
- 7. カリキュラム全体に一貫性を持たせる資料**
  - 学科・コース・専攻のカリキュラム単位から授業、学習を確認できる

## 徳島大学シラバス作成ガイドライン

徳島大学で開講されているすべての授業について、シラバスに記載する項目及びその記載方法について大枠を示したもの。

- シラバスは各学部・学科のDP、CPと密接な関係があり、整合性を持つことが重要です。
- シラバスは、決して授業担当教員の個人の考え方のみによって書かれるものではありません。

2018年11月21日 大学教育委員会 一部改正

※DP:ディプロマポリシー（学位授与の方針）  
CP:カリキュラムポリシー（教育課程・実施の方針）

## 今回の改正のポイント

- ◆ **「教育の内部質保証方針」**が策定されたことに伴い、評価方針が明確になった。
- ◆ 主に**「(6)到達目標」**、**「(11)成績評価方法・基準」**が変更された。

## (6) 到達目標

- ◆ 授業の終了時点において学生が習得しておく必要がある学修成果のこと。
  - カリキュラムに基づいて決められる
- ◆ 該当授業の単位を付与する最低条件である。
  - 学生を設定した目標以上に育成する
- ◆ あらかじめ明確に示しておく必要がある。

## (6) 到達目標

- ◆ **学生を主語**として記載する。
- ◆ **1つ1つ独立**させる。
  - 分析装置の構成を説明することができ、その装置で測定したデータを解析することができる。（←2つに分ける）
- ◆ 学生が自分の身につく能力が**イメージできるように**具体的に記載する。
- ◆ **観察可能な動詞**を使う。
  - 参考：シラバス作成ガイドラインp.6
- ◆ 評価を意識して**「基準」や「条件」も記載**する。
  - 薬物の安定性に影響を与える因子を3つ以上述べるができる。

## お勧めの書籍



シリーズ大学の教授法 1  
『**授業設計**』  
中島 英博 編著  
玉川大学出版部

- ◆意欲や態度を育てる授業、複数教員での授業などの設計方法のほか、教材やシラバス例などの資料を掲載。

## (11) 成績評価方法・基準

- ◆「到達**目標**」を**達成したかどうかを判定**すること
- ◆正確に判定するために、原則として、評価の**機会や方法を複数化**し、**総合的な成績評価**を行う
- ◆「到達**目標**」の**すべてを網羅**するようにする
- ◆評価の**内容、方法、実施時期、評価基準を具体的に明記**する

## (11) 成績評価方法・基準

- ◆シラバスに記載する必要があるもの

1. 評価の**方法と期限、実施時期**
  - 定期試験、レポート、小テスト、発表、ポートフォリオなど
  - 毎授業で実施、15回目に実施、全部で3回実施など
2. 評価の配分**割合を記載**する。
  - **期末試験60%**、**小レポート30%**（授業内で3回実施し、各10点満点で採点）、授業内での**発表10%**
3. 評価の**基準を記載**する。
  - 期末**試験は60点以上取得**すること（100点満点）
  - レポートを**期限内に提出していない場合は評価しない**。
  - 授業中にグループ課題を**発表した場合に5点追加**する。

## お勧めの書籍



シリーズ大学の教授法 4  
『**学習評価**』  
中島 英博 編著  
玉川大学出版部

- ◆学習評価とは学生の学習成果を最大限に高める広範な教育活動のこと。ループブック、ポートフォリオ評価など、多様な評価を網羅。

## (1) 授業の目的

- ◆ **学生を主語**として記載する。
- ◆ DPや学科の**カリキュラムとの関連**を明記する。
- ◆ DPを達成するために、**授業がなぜ必要**であるかの存在意義が記載する。

### 例

食品とは、人が日常的に食物として摂取するものの総称であり、日々摂取することで身体の栄養を保持し、生体の恒常性を維持している。食品には多種多様な成分が含まれており、その成分には栄養素・非栄養素としての有機化学的な特徴がある。食品は直接そのまま食用にする場合もあるが、調理・加工してから食用とする場合が多く、調理加工や保存過程での成分変化等もみられる。そこで、**食品の成分を化学構造から捉え、食品とその加工の特性を理解し、食品の生産や加工への応用を成す能力を修得する。**食品加工の技術は、新たな産業の創出における重要や技術の一つである。この授業で学習する知識や技能は、どのコースにおいても基礎となる内容である。

徳島大学シラバスより抜粋、一部改変

## (2) 授業の概要

- ◆ 学部、学科の**カリキュラム上で位置づける**。
- ◆ 学生の**知的好奇心を喚起する**ように記載する。
- ◆ **アクティブ・ラーニング**を取り入れる。

### 例

医学研究は動物実験を通してヒトでは直接なし得ない研究を可能とし、めざましい発展を遂げてきた。**医学最先端領域をよりよく理解するためには、胚発生工学や遺伝子改変技術に裏打ちされた現行実験動物学の潮流を学ぶ必要性がある。**

授業は実験動物の特性、マウスゲノム遺伝学、幹細胞生物学を中心に理解を深める。また、医学領域での疾患モデル動物、その遺伝解析について学び、同時に動物実験の倫理について習得する。

主に講義形式で解説を行い、**授業の途中で小レポートを実施する。**小レポートは、授業に関連する内容について考え、応用することができるようにするための課題を与える。まず個人で考え、その後グループで意見交換を行いまとめる。

徳島大学シラバスより抜粋、一部改変

## (7) 授業の計画

- ◆ 授業の**目的・目標と整合性**をとる。
- ◆ 2単位の場合は**15回分の授業内容**を記載する。
- ◆ 授業時間外に**どのような学習を行うべきかを具体的に記載**する。

- 例**
- 毎回の授業終了時に**次回の授業で使用する資料を配布する。**それに目を通してから授業に参加すること。また、資料の再配布は行わないため必ず持参すること。(予習に関する記載)
  - 教科書の授業に関連するページを再度復習し、**練習問題をすべて解くこと。**なお、解けなかった問題は**オフィスアワーに質問に来るか、友人に聞くなどして理解しておくこと。**(復習に関する記載)

## その他 (大事なこと)

- ◆ **授業のルール**
  - **遅刻や欠席**の際にどうするか?
  - **課題**の提出について
  - **私語、携帯電話**の取り扱い方
  - **内職**などの対応
- ◆ **オフィスアワー、連絡先、参考文献、資料**
  - **授業時間以外での学習**に繋がる
  - 学生が授業で分からない時に質問できる
- ◆ **受講生へのメッセージ**
  - 教員の**授業に対する姿勢**を伝える

The screenshot shows the Tokushima University homepage. A red arrow points to the '大学案内' (University Information) menu item in the top navigation bar. Another red arrow points to the '在学生・保護者の皆さまへ' (For Students and Guardians) link in the main content area. A third red arrow points to the '教務事務システム' (Course Management System) link in the footer area.

The screenshot shows the login page for the Course Management System. Red circles and arrows indicate the following steps:
 

- ③: Points to the '教務事務システム' (Course Management System) link in the left sidebar.
- ④: Points to the login form fields for 'User name' and 'Password'.
- ⑤: Points to the 'シラバス' (Syllabus) link in the top navigation bar.

 A '同意書' (Consent Form) window is also visible on the right side of the page.